

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率 78%
保護者様： 30名回答、回答率 81%

職員の意見

○環境・体制整備

・柱などの影響で角張った場所が多い。訓練室内のドアが引き戸で手を巻き込む可能性がある。などの意見が挙げられた。角にはクッションカバーを貼る、児童を引き戸近くで活動させないなど対応している。

○業務改善

・スタッフ間のミーティングにおいて、利用児童の前の様子を報告する様、徹底したことで、非常勤スタッフへの児童に関する情報共有が円滑になってきている。

○適切な支援の提供

・療育プログラムが固定化しないよう、非常勤スタッフにも積極的に療育担当を担ってもらい、療育プログラムに幅を持たせられる様、工夫した。

○関係機関や保護者との連携

・児童の些細な変化も、出来る限り連絡帳・口頭で保護者に説明し、保護者の安心・安全の確保に努めている。また、関係機関(松が谷福祉会館)への情報提供も随時、行っている。

○保護者への説明責任等

・契約時は、責任者及び管理者のどちらかが内容を把握して説明を行っている。
・ニュースレターは毎月発行、保護者会は年2回開催している。

○非常時等の対応

・災害等に備えて1か月に一度避難訓練を実施しており、必要な訓練は指導員も含めて実施している。毎年年度初めに緊急連絡先の確認や、避難場所のお知らせを配布している。緊急マニュアルは本社で作成しているが、保護者への周知、説明は充分ではないので今後はしっかり対応して行く予定である。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・「スペースが狭い」という意見が多い。その他には、「専門家の巡回」などの専門性の充実・向上の希望が多く挙げられた。

○適切な支援の提供

・「ご回答いただいた多くの保護者から適切な支援を受けている、満足していると評価していただいたが、一部「支援計画の実施が不透明」や「療育プログラムが固定化されている」というご意見もいただいた。

○保護者への説明等

・「とても良くしてもらっている」という声も挙がる中、「保護者間の交流がない」や「説明だけではなく、アドバイスがほしい」などの意見もあった。

○非常時等の対応

・「避難訓練の実施はわかるが、実際の現場を見ていないので、何ともいえない」などの意見があった。

○満足度

・「学校行事が続いたり疲れがたまってる時以外は、行き渋りはほぼない」、「とても満足している。スマートキッズではとにかく楽しくお友達と遊ぶ、という事をこちらが求めているので、よく遊んでくれて、帰ると今日の話をしてくれたりするので嬉しい。」というご意見をいただく。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・療育活動に関する教室内研修を行い、子どもの特性に合わせた活動内容を盛り込み、職員の無理がないような体制作りを行う。(毎月10日までに実施)
- ・週3日勤務の非常勤職員のために子どもの様子などを週1回改めて周知する場を作る。
- ・災害等の緊急時対応は職員同士で研修を実施する。
- ・新年度に災害時のお知らせを再配布する。
- ・長期休みの時期は公共交通機関などを利用した課外活動を実施する。
- ・地域の夏祭りなどに参加して地域との交流を深める。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・スタッフミーティングにて利用児童の前回の様子を振り返る機会を作れるようになった。
- ・長期休みに複数回の課外活動を実施し、他教室との合同企画も行った。
- ・課外活動における交通機関の利用はできていない。



アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・関連機関との定期的な情報交換が出来ている。(学校、関係機関、地域住民)
- ・児童の教室での些細な変化の報告を保護者におこなっている。

○改善点

- ・保護者間の交流の場がない(保護者会など)
- ・療育、支援の質向上のため、スタッフ一人ひとりの専門性の充実化が必要である。



中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・教室内での専門性を上げる為、教室内研修を充実する。(月に一度)
- ・ペアレントトレーニングや療育参観などの保護者交流の場を設ける。

○1年間で取り組む具体策

- ・保護者会や保護者参加型療育を企画し、保護者交流の機会を増やす。
- ・ブログを活用し、教室での様子を見られる機会を増やす。
- ・心理士や他教室のスタッフとのミーティングや研修を行う事で専門性や療育の幅を広げる。

スマートキッズ